

**製品名: WIP ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19902**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	52kDa

**抗原情報**

遺伝子名	WIPF1
別名	WIPF1; WASPIP; WIP; WAS/WASL-interacting protein family member 1; Protein PRPL-2; Wiskott-Aldrich syndrome protein-interacting protein; WASP-interacting protein
遺伝子 ID	7456.0
SwissProt ID	O43516
免疫原	抗血清はヒト WIPF1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 421-470

**背景**

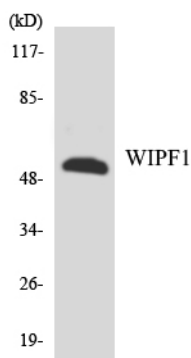
この遺伝子は、アクチン細胞骨格の構築に重要な役割を果たすタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、X 連

鎖劣性遺伝疾患であるウスコット・アルドリッチ症候群で頻繁に変異するウスコット・アルドリッチ症候群タンパク質の領域に結合します。これら2つのタンパク質間の相互作用の障害が、この疾患の一因となっている可能性があります。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする2つの転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008年7月],ドメイン: CDC42 結合部位とは異なる部位で、N末端領域170内のWASに結合します。機能: アクチン細胞骨格に直接作用する可能性があります。アクチンの重合と再分布を誘導します。NCK1 および GRB2 と共に、WASL のリクルートと活性化に寄与します。WASL の細胞内局在の調節に関与し、糸状仮足形成を促進するストレスファイバーの分解につながる可能性があります (類似性による)。ワクシニアウイルスに WASL をリクルートするためのアダプターとして機能することにより、ワクシニアウイルスの細胞内運動において重要な役割を果たします。その他:機能的な WASL がいない場合、PIP5K 誘導性小胞表面にリクルートされます。類似性:ベルプロリンファミリーに属します。類似性:1つのWH2ドメインを含みます。細胞内局在:小胞表面およびアクチンテール沿い。アクチンストレスファイバーと共局在します。WASL と共発現すると、アクチンフィラメントとは関連がなくなり、WASL と同様に核周囲および皮質領域に蓄積します。サブユニット:WAS、プロフィリン、およびアクチンに結合します。WASL に結合します。組織特異性:末梢血単核細胞、脾臓、胎盤、小腸、結腸、および胸腺で高発現します。卵巣、心臓、脳、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、膵臓、前立腺、精巣での発現が低い。

## 研究分野

-

## 画像データ



WIPF1 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。